

グランドファーマーザーClockの修復



2007年3月

古典時計協会 上瀬千春

グランドファーザー・クロックの修復

はじめに

・この時計は2006年8月25日にドイツのFURTWANGENにおいて購入したものである。

修復:NAWCC108支部 古典時計協会 上瀬千春 横浜市在住

修復箇所

1. 時打ちが8時を過ぎると、毎生時にひとつしか打たない

毎正時と30分に時打ちをするが、ツツカナのピンに当たるレバーが磨耗のため減って短くなっているため、前に修理した時計師が無理やり合わせるため手抜きの修理をしたようだ。

その修理は、本来垂直に立ててあるピンをレバーにあわせるために2本とも曲げて当たりができるようにしてあった。

この修理は根本的なものでなく、時計本体が後ろに傾斜している場合は動くが、前傾になると、ピンがレバーから遠ざかるため正確に時打ちをしなくなるものである。

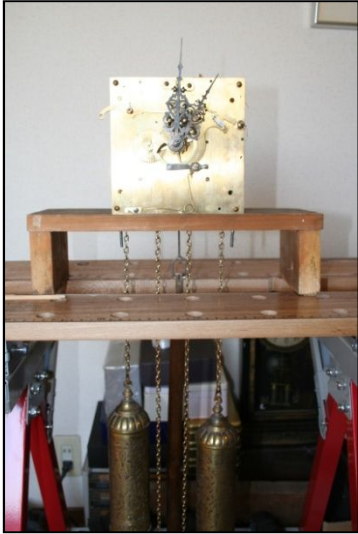
修理では、レバーが磨耗しているため、この真ちゅうのレバーを焼きなまし、叩いて伸ばして所望の長さを確保した後、ピンを垂直に立てて修正したこれにより、オリジナルと変わらず数十年は問題がないだろう。

なお、このレバーの長さは数取り歯車のスタート地点の歯に正確に落とすための機構に関わっているもの

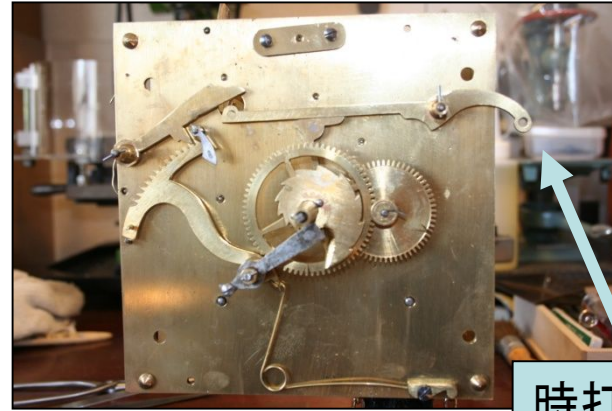
2. 時打ちシュモクのネジ不良

3. 時打ち数合わせ用レバーの修復

4. 重錘は4.5kgと5.0kgが付属

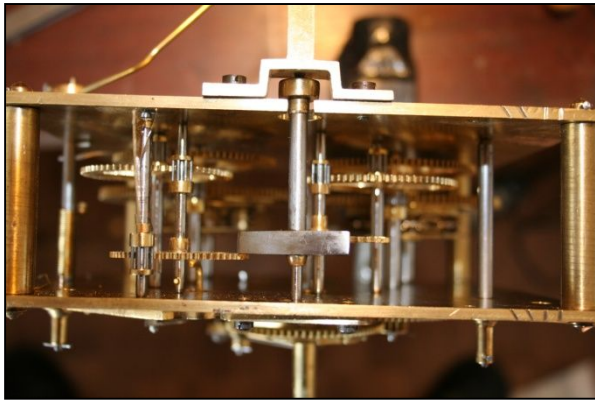


機構全景



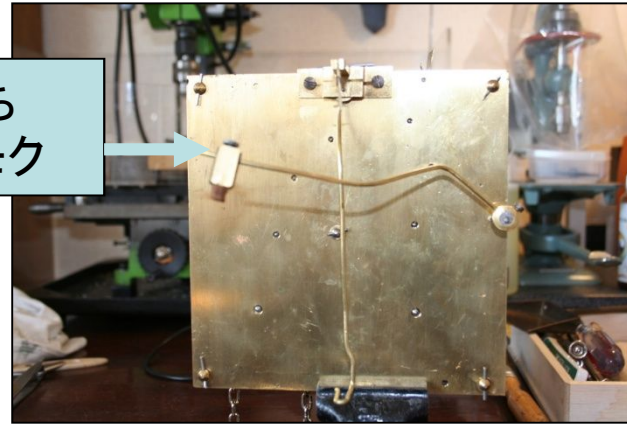
時打ち数合わせ
せバー

前面

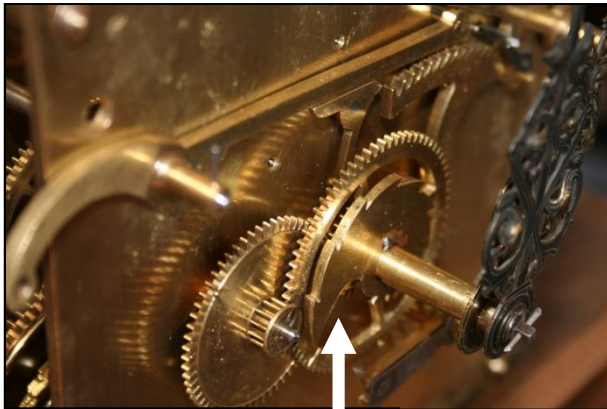
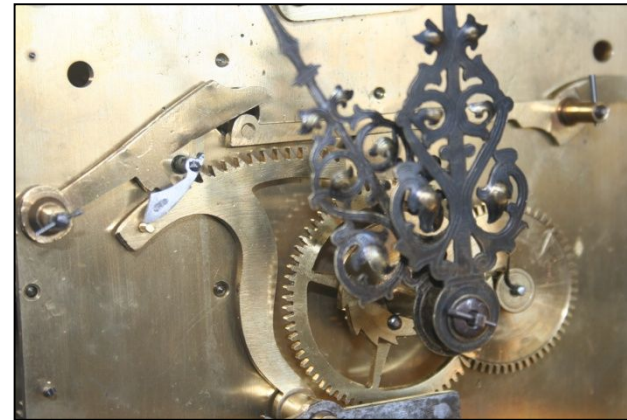
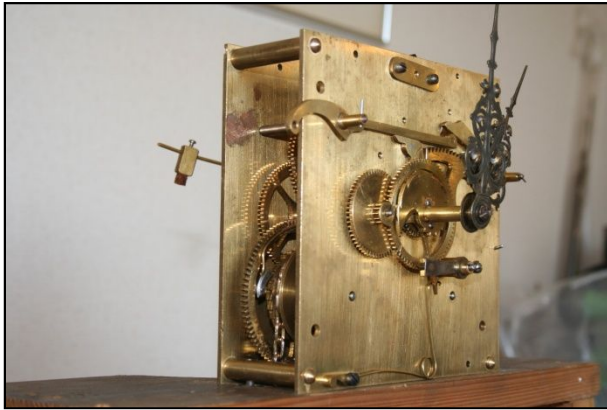


上部から

時打ち
シュモク

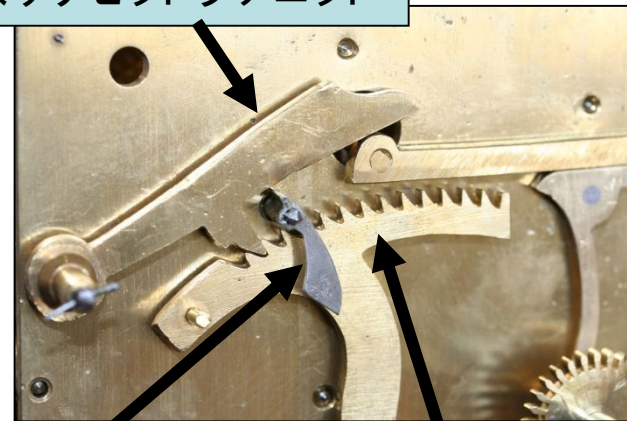


裏面



数取りリセットカム

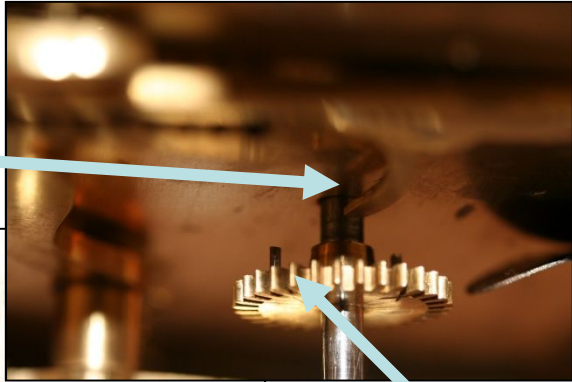
数取りリセットラチェット



数取りカウントレバー

数取り歯車

数取りセット用レバー
叩いて伸ばし長くする



ツツカナ・ピン
2個対角に立
ててある
垂直に直す

